



湾岸・アラビア半島地域ニュース

UAE: イラン・ビジネスに対する銀行の対応 (11月16日付「ガルフ・ニュース」紙)

1. イラン・ビジネス向けに対する UAE 中央銀行の方針には何も変化ないが、最近の米国によるイラン制裁の影響で、UAE 国内の多くの銀行は、UAE 国内でイラン人が経営するビジネス（個人向け、企業向けを問わず）への融資条件を厳しくしたり、イラン企業が関係するビジネスへの信用状発行を中止している。
2. 依然として多くの銀行は、合法的なイラン・ビジネスに対する取引は継続するとしているが、ある銀行員は「現地企業として登録されながら、実際にはイラン企業の代理を務めているような例に対しては、厳しく対応している」と述べている。これらの銀行の中には、米国等の圧力を受け、欧州を始めとする他の地域での彼等の権益を守るために、このような措置を講じている例もある。
3. 法的には、イラン有数のメリ銀行、セダラット銀行は、UAE 国内で何ら問題なく活動しているが、これら銀行は米ドルによる取引を中止している。情報筋は、UAE が米国のイラン制裁に追従する可能性は低いと見ているが、セパ銀行等に対する国連制裁については、UAE においても今年初めから実施されている。
4. イラン・ビジネス評議会（IBC）幹部によれば、イラン・UAE の二国間貿易額は、2006年に120億米ドルに及び、UAE には9千社のイラン企業、45万人のイラン人が居住している。又、UAE 国内のイラン資産は、3千億ドルに達すると見積もられている。イランの輸出入の大部分がUAE 国内を経由していることから、資金面での締め付けは、貿易全体に影響するとみられている。イランにとり、UAE は米国に次いでイラン人資産の多い国である。（注：イラン人国外資産計1.3兆ドルのうち米国に9千億ドルが集まっているといわれている。）